

施設運営について

○現施設における問題点

①年末、ゴールデンウィークなど搬入車両が増加すると、入口ゲートを越えて市道に渋滞が発生する。

②施設内の資源ごみ拠点集積所に資源ごみを持ってくる車両と計量器を通過して有料でごみを処理する車両の動線が交差して注意が必要である。

混雑時には、交通整理が必要となる。

③施設内に各種のごみ処理場所が、混在しており、搬入者は、有料、無料、分別ごとに様々な場所にごみを捨てに行くことが必要である。

そのことが、初めて施設を利用する市民や事業者にとって非常にわかりにくく、使いにくい施設となっている。

また、間違えて捨ててしまうこともあり、そのごみの分別、移動などにより職員及び委託業者の作業量が増加している。

④ごみ処理に掛かる手数料や使用量の支払いの方法は、計量後の伝票を持って、車を停めて、事務所で行うことになっていることから、非常に煩雑であるとのご意見を多くいただいている。また、事務所での支払いは、現金のみである。

⑤毎年、市内全域の小学4年生が、施設の見学に訪れているが、埋立処分場などに向かう歩道等の整備がないため、搬入車両との離隔の確保が十分でない。

また、構内道路を通行する車両の速度が高く、危険を感じることがある。

○新施設における対策（案）

①計量器を施設内の東側奥に移動させて、入口ゲートまでの距離を稼ぐことにより市道への渋滞発生を防ぐ。また、計量器を2台設置して、計量時間の短縮を図る。

②パッカー車や有料処理の必要な車両と無料の資源ごみ拠点集積所を利用する車両の動線及び処理区域（ゾーン）を区分し、安全性の向上及び利便性の向上を図る。

③各種ごみ処理区域（ゾーン）を明確化し、案内表示をわかりやすいものにするなど使いやすく、わかりやすい施設となるよう工夫する。

また、計量時に搬入者のごみを見て、ご案内するよう人員等を配置する。

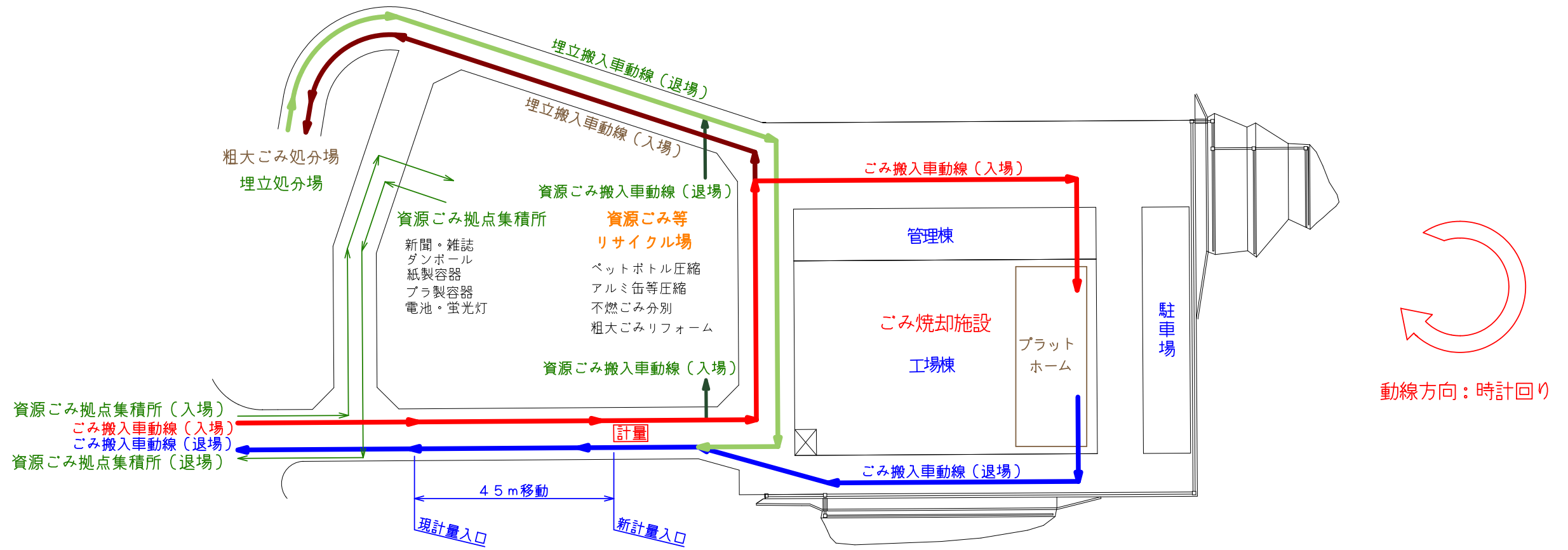
④計量器を通過するだけで個別認証ができるシステムの導入を検討する。

支払いは、キャッシュレス社会に対応する方法を検討する。

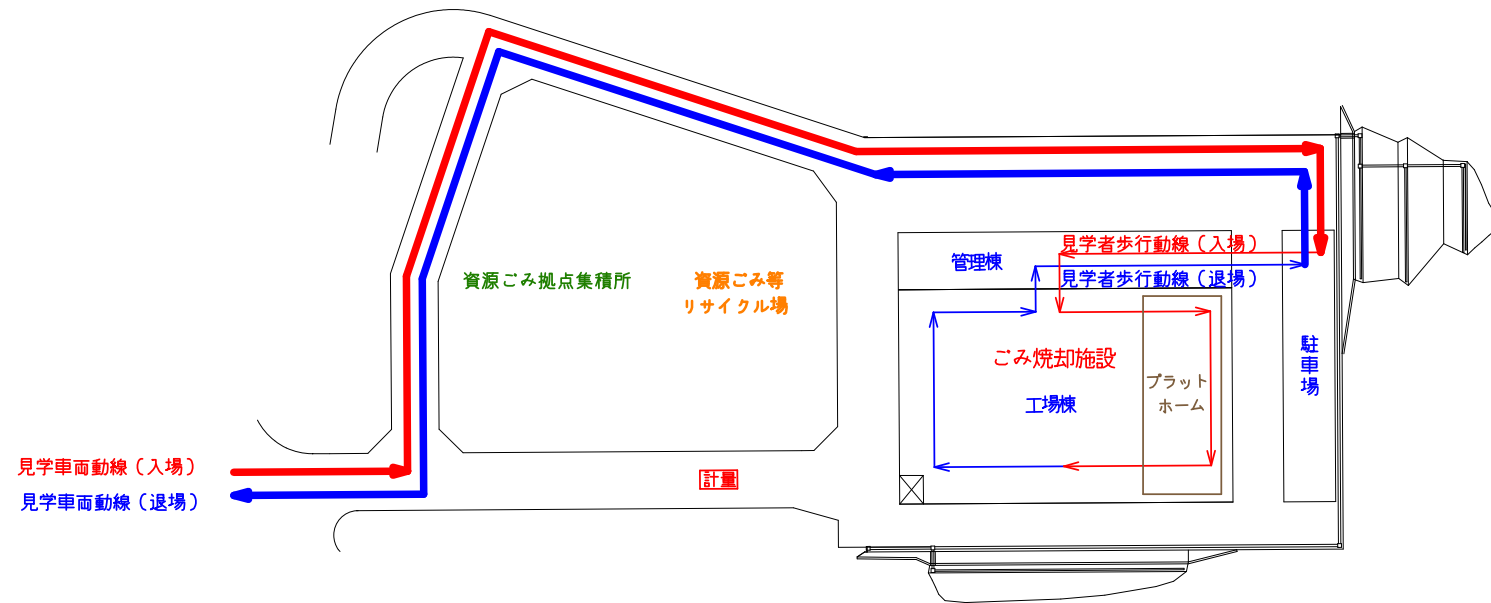
⑤構内道路の幅員を十分に確保し、歩行者エリアや横断箇所の路面標示の実施などにより見学者及び歩行者の安全性の向上を図る。

構内道路通行車両の速度抑制対策（バンプ等）を設置することや、照明灯の設置により構内道路の安全を確保する。

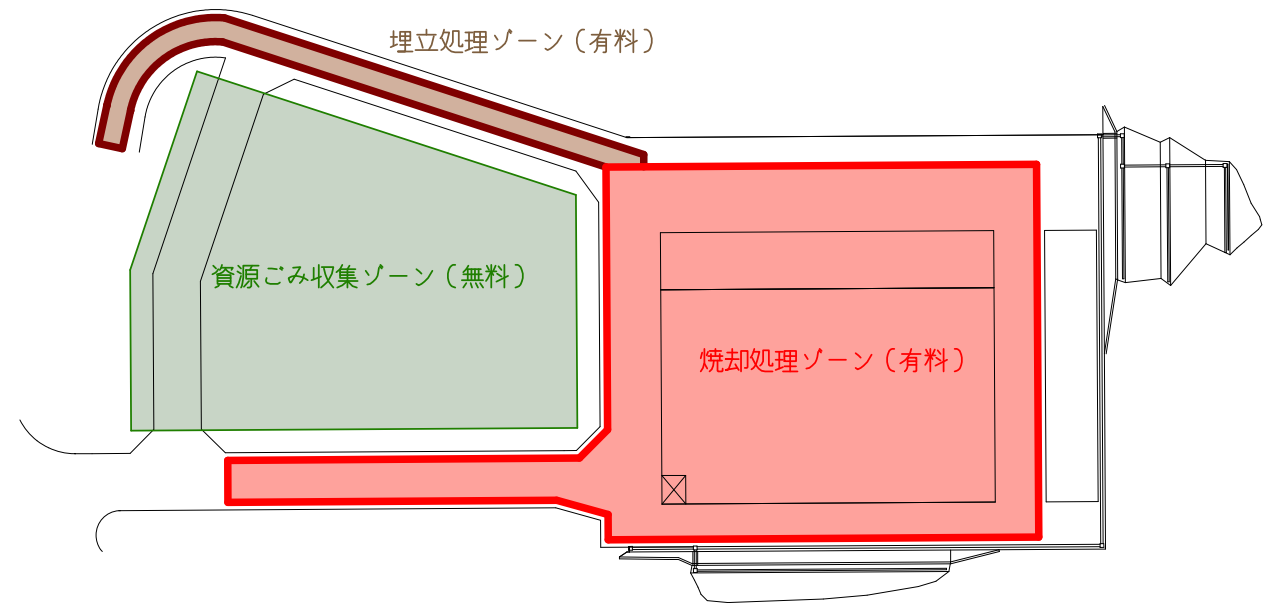
ごみ搬入車両動線



見学者動線



ゾーニング



動線計画平面図

A3-S=1:1000

高山市三福寺町

S=1:1,000

